

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎

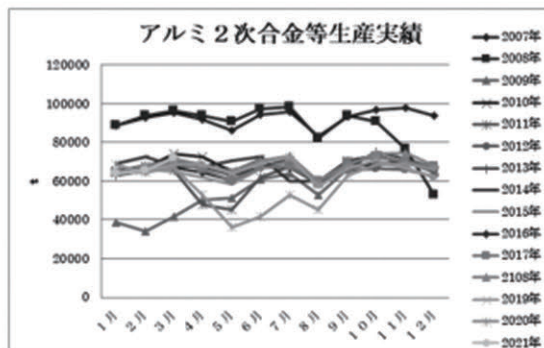
4月のアルミ概況及び5月の見通し (3)



予想レンジ		
LME 現物後場買い	2,400-2,600ドル	※
スクラップ	据え置きから+10円~15円	※
	(前月最終価格より)	
為替	109-110円	高
	(1か月間TTM)	

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比は+7.5%の7万2317tで5カ月連続プラス。出荷は+10.5%の7万4746tで5カ月連続プラス。



出典 日本アルミニウム合金協会

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると3月の自動車生産台数は前年比+4.5%の82万6928台。輸出は+3.4%。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると4月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+22.2%の21万353台。内訳は、乗用車が+26.3%、貨物が+1.7%、バスは-42%。

【住宅着工戸数】

3月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比1.5%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比9.0%の増加となった。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比が+7.1%の16万9848tで3カ月連続プラス。

板類は10万5813tで+8.9%、3カ月連続プラス。押出類は6万4035tで-1.1%、18ヶ月ぶりプラス。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比は+7.5%で7万2317t、5カ月連続プラス。出荷は+10.5%で7万4746t、5カ月連続プラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比が+110.6%の169t、2次合金が+5.5%の2570t、スクラップが+95.1%の3万4069t、アルミ缶が+25.7%の9989t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比-2.8%の11万169t、2次合金が+18.1%の10万2170t、スクラップが+0.4%の496t、合金スクラップが+49.1%の5711t。

【見通し】

【自動車】

3月の自動車生産が+4.5%。4月国内販売台数が前年比+22.4%。生産微増は半導体不足によるものと認識、販売は大幅増。今後生産減が販売数響くか注視。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は、前年比が+7.1%の16万9848tで3カ月連続プラス。今後プラスが続くかの動向に注視

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比は+7.5%の7万2317tで5カ月連続プラス。出荷は+10.5%の7万4746tで5カ月連続プラス。アルミ輸出は、相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けて大幅増。過去10年で最大の輸出量となった。アルミ輸入は、国内自動車販売の好調から合金地金スクラップが大幅増。

【スクラップ景況予想】

流通在庫はLME価格が2400ドルで高止まりしてるが先高感や半導体不足により発生は少ない。

需要面に関しては意外にも販売が堅調な事による材料不足や国際相場の高騰からの輸入玉の不足からメーカー在庫は気薄。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向に左右される。

①に関しては、4月28日のFOMC声明で雇用の最大化と長期的な2%のインフレ達成を目指しそれを達成するまで金融緩和スタンスを維持すると発表した事、バイデン大統領は7月の独立記念日までに1億回近くのワクチン接種を提供するという新たな目標を発表したことから米景気は回復傾向が続くのではないかと。

②に関しては、国際銅研究グループ(ICSG)が昨年の中国精製銅輸入は38%増加、440万トン超過と過去最高を記録したこと、2021年1~3月期の中国の経済成長率が18.3%と、四半期の数値公表が始まった1992年以降で最高を記録したことから順調に回復するのではないかと。

これらを踏まえた4月のアルミ価格は2400-2600ドル(セツル)との予想。

ドル円値は107円~110円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては据え置きから+10~15円程度と予測している。

(「4月のアルミ概況及び5月の見通し」終わり)